

第2回男女共同参画講演会

60からがおもしろい

～妻と夫の定年塾～

団塊の世代の夫たちが定年退職を迎え、職場から家庭・地域に戻ってきました。

定年後、家庭以外に居場所のない夫と、そんな夫に自分の生活を拘束されてストレスを抱えている妻。夫婦の意識のズレを修正するポイントやコミュニケーションの取り方、地域との関わりなど、作家西田小夜子さんに自身の体験談も交えた愉快なお話を聞きます。

講演会の最後には、もう一度あなたにワクワク。そんな幸せな思いになれる講演会です。

ご参加は、「定年なんてまだ早い」方も、「もう定年を迎えた」方も、関心のある方なら大歓迎です。



11月27日 **土** 13:30～15:00 ※13:00 開場

会場 海老名市文化会館 小ホール

お電話で

046-235-4568

FAXで

046-233-9118

参加無料
事前申込制

市ホームページから

ホームページ内で「定年塾」と検索してください。

携帯電話は
こちらから→



11月22日は 「いい夫婦の日」

男女共同参画推進員の皆さんに、夫婦の上手な付き合い方を聞いてみました。さりげなく家事を分担していたり、お互いの趣味や活動を応援しあったりしていることが伺えました。

★家事はどうしている？

女性：出かけた時は妻をあてにせず、自分で好きなものを買って食べるようルールを決めています。夫も好物を買って食べられるので楽しいようです。

女性：散歩帰りに買い物をしてきてくれる夫です。最近スーパーで、一人で買い物をしている男性が増えましたね。

男性：お互い仕事をもっているなので、早く帰った方が料理当番と決めています。でも、一人でスーパーへ買い物に行くのは少し抵抗があります。

女性：逆に買い物を楽しんでいる男性も意外と多いですよ。男は仕事、女は家庭という考えは変わってきています。

★趣味はどう？

女性：二人の趣味は料理。退職後、二人で料理教室に行ったのがきっかけで、今では夫の方が上手。最近では夫が作った(1)

料理を近所の人とミニパーティーで楽しんでいます。会社人間であった夫も、料理のおかげで地域の友だちもだいぶ増えました。

女性：相手の趣味は干渉しないのが motto。家事は得意分野を担当。

女性：ときには二人でコンサート♪。

男性：60歳は第二の人生の始まりであり、人生への希望を持てる時期。夫婦の仲の良さも戻ってきたとき。60歳を迎える人は、夫婦でおおいに夢と希望を語ってほしい。



話が弾む! 推進員の皆さん

日時：平成22年11月28日(日)

午後1時30分～4時

場所：中央公民館 調理実習室



チキンのハーブ焼き

簡単レモンケーキ

ワインがおいしいブルスケッタ？

- 定員 夫婦15組(先着順)
- 参加費 材料代1組1,000円
- 持ち物 三角巾・ふきん・筆記用具
- 事前予約制、申込みは広聴相談課まで



でご参加ください。

お料理がはじめての男性も安心してご利用ください。

いい夫婦の日、ごめさて
夫婦deクッキング
クリスマス・ディナーを作ろう

11月12日から25日は、

「女性に対する暴力をなくす運動」

の期間です。



夫・パートナーからの暴力、性犯罪、売買春、セクシュアル・ハラスメント、ストーカ―行為等女性に対する暴力は、女性の人権を著しく侵害するものであり、男女共同参画社会を形成していく上で克服すべき重要な課題です。

本来、暴力は、その対象の性別や加害者、被害者の間柄を問わず、決して許されるものではありません。暴力の現状や男女の置かれている実態を直視するとき、特に女性に対する暴力について早急に対応する必要があります。

DV（ドメスティック・バイオレンス）や児童虐待など痛ましい事件が後をたちません。被害を受けている人がSOSを発信しやすい社会、その声を受け留めることのできる社会になるよう、この運動を機会に考えてみましょう。

女性に対する暴力根絶のためのシンボルマーク



□ 男性優位、女性従属の力関係

DVは、特定のカップルにたまたま起こる喧嘩などといった個人的な問題ではありません。男女の経済力格差や社会的な地位の差など「男性優位」の社会構造、女性を対等なパートナーと見ない女性差別の意識、暴力をふるうことについての寛容な考え方などが、社会の根底にあることなどで起こります。

□ 様々な暴力、影響は？

殴る、蹴るなどの身体的な暴力だけでなく、暴言を吐く、無視をする等の心理的暴力、生活費を渡さない等経済的暴力、外出や友人との付き合いを制限するなど社会的隔離等様々な形で現れています。

暴力は、将来への不安や絶望、孤独感など女性の心を深く傷つけ、不眠、頭痛、動悸等身体的な症状に現われることもあります。身体的・精神的な影響で、日常生活や社会生活ができなくなるなど影響は深刻です。更に、子どもへの影響も大きく、情緒不安定になり心身に影響が現われます。両親の間の暴力を目撃することは、子どもへの虐待になるとされています。

□ ひとりで悩まないで…

自分さえ我慢すればいい、周りには知られたくない、恥ずかしくて話せない、相談しても無駄、相手の行動は愛情表現だ、話したことを知られるのが怖い…等、暴力を受けていても相談することはとても勇気がいることです。自分や子どもたちの安全で安心な暮らしのために、ひとりで悩まないで相談してみましょう。援助を求めることは、大切な権利です。



□相談を受けたら

その人の話をありのまま受入れてあげてください。「あなたは悪くない」と声をかけてあげましょう。心からの励ましや、支援・相談機関の情報提供などの手助けは、大きな助けとなります。

電話相談機関

身近な相談機関をご紹介します。



- 市「女性への暴力相談」 231-2224 (月～金, 10:00～12:00/
13:00～17:00)
- かながわ県民センター 045-313-0745 (月～金, 9:00～21:00)
- かながわ女性センター 0466-27-9799 (火～日, 9:00～12:00/
13:00～17:00 ※木曜は9:00～12:00のみ)
- 県「週末ホットライン」 045-451-0740 (土・日・祝日の金曜,
17:00～21:00)
- 県警総合相談室 045-664-9110 (毎日, 24時間)

□関連図書特集

この期間に合わせ、中央図書館では関連図書を集めたコーナーを設けています。
期間：11月1日～14日(15日から臨時休館のため)ぜひ、ご活用ください。

「夏休み施設見学会」 JR大宮総合車両センター を見学しました

JR大宮総合車両センターを見学し、技術競技大会で優勝した、女性技術者に夢をかなえるために日々努力していること、仕事の楽しさなどのお話を聞きました。



←普段見たことのある電車が
いっぱい、相模線もありました

配管工の技術大会で見事優勝
した女性整備士の寺田さん →



参加者の感想文を紹介します

JR大宮総合車両センターを見学して 小学校五年 Kさん
総合車両センターは、ブレーキの検査をしたり、窓の修理をしたりと、電車が安全に走るために修理や検査をしているところでした。電車が入庫してから修理作業が終わるまで約二週間もかかるとのことでした。

日本ではまだ少ない、女性整備士の寺田さんからお話を聞きました。寺田さんは今、電車の電気系統の整備の仕事をしています。高いところに手が届かなかったりするので、いつも脚立を持ち歩いていると話してくれました。でも、低い部分の作業は小柄なほうがやりやすいということも話してくれました。

寺田さんは、昨年実施された技術大会で優勝したそうです。男の整備士さんがたくさんいるなかで、努力してがんばっていることが、すごいなと感じました。

JR大宮総合車両センターを見学して

小学校五年 田河 大和さん

総合車両センターでは、大きな車体を台車に乗せて運んだり、部品を取りついたりする作業をしていました。

女の人で整備をしている寺田さんは、大きい物を扱う仕事をしたいと、JRに入社したと言っていました。整備士の仕事は男の人の仕事と違っていましたが、女の人がんばって働くのもよいと思いました。

このように、男の人も女の人も、同じ仕事ができる、男女共同参画がどんどん進めばよいと思いました。

